

市民の声



額娃町別府

堀井 愛美

私は、宮崎から南九州市額娃町に移住して、社会福祉法人大川福祉会特別養護老人ホームビハーラで介護職として働いています。

高齢者の方と関わるのが好きで、ホームページで施設や周りの様子を見て、「ここで働いてみてもいいかな」と思い、実際に訪れてみて、南九州市に住むことを決めました。働いてみて、初めは利用者の方が話す額娃弁が分からず、うまくコミュニケーションがとれず、苦勞しました。しかし、近所の方々と職場の先輩方から教えてもらったりして少しずつ慣れてきま

した。介護の仕事は、大変ですがとてもやりがいのある仕事です。毎日、あわただしく過ごしています。が、ビハーラは介護職の平均年齢が二十三歳と若い人が多い職場なので、楽しく働くことができます。

南九州市に住むと決めた時、市のホームページの「空き家バンク」で住むところを探しました。住んでみて、近所の方々と優しく、環境も良くて、住みやすいところだなと思っています。今後は、さらに若者や子育て世代が住みやすい町にしてみたいと思います。また、福祉についてもさらに充実してもらえたらと思います。そして、もっと多くの方に南九州市の魅力について知ってもらえたらと思います。

川辺町下山田 古市 豊

空き家対策について

世帯数の減少や高齢化に伴い、今後も空き家の増加は避けられない。そうなる予防、防災、防犯、衛生、景観等で悪影響を及ぼす恐れがある。私の住んでいる自治会も空き家が増えてきているが、他の地区でも危惧していることと思う。



川辺町下山田

古市 豊

が前に進まないのが実情である。ある自治体は、賃貸住宅、集会所などに用途を変更し、地域の活性化に繋げている。南九州市の取り組みは、昨年8月に開催された市長との懇談会において、「空き家の調査を終え、アンケートを出す予定。また、空き家対策の基本計画を作成する。」とのことであった。平成27年に「空家対策特別措置法」が施行された。それにより、所有者の管理責任が問われるので、所有者も今までのように放置しておれなくなった。自治会と所有者そして市（サポート支援を含む）で話し合いの場を設けることで、すぐに打開策は出ないかもしれないが、何らかの方向性が見えれば、少しでも地域の活性化に繋がるのではないかと思う。

九州北部豪雨で被災された皆様へ

豪雨により被災されました皆様へ心からお見舞い申し上げます。
一日も早い復興をお祈り申し上げます。

南九州市議会

編集後記

6月27日に故郷川辺会の総会が開催され多くの皆様に参加し、総会に続く懇親会も大いに盛り上がりました。

故郷川辺会は、会員100名近く、関東や関西、鹿児島川辺会と協力して桜の植樹や草刈り、肥料やり、ホタルの増殖、岩屋橋等の清掃、EM菌ダンゴを使ったプールや河川の浄化等の活動にも取り組んでいます。

また、関東、関西、鹿児島川辺会との交流を通じて地域活性化に努めています。

市内各地域で地域活性化の取り組みが活発に行われることを期待します。

(西)

広報編集委員会

委員長 西 次雄
副委員長 鮫島 信行
委員 日置 友幸
大久保 太智
浜田 茂久
満留 秀昭



◎発行：鹿児島県南九州市議会 ◎編集：議会広報編集委員会 ◎発行責任者：蔵元 慎一
TEL 0993(83)2511 FAX 0993(83)4658 ホームページ <http://www.city.minamikyushu.lg.jp>